

月刊島民

中之島

Vol.83 2015 6/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

夢の
中之島



ナカノシマ大学

「天神祭の極意」

落語／林家花丸
笑福亭たま 笑福亭生寿

申し込み受付中!

中央公会堂は夢のステージだった。

取材文／大迫力本誌 写真／浜田智則 資料提供／大阪市中央公会堂



明治44年(1911)
大阪市公会堂
新築設計
指名懸賞競技

第1席 岡田信一郎案

岡田は公会堂という建物の性格や、中之島の水辺に建つことをかなり意識したようです。華やかさは求められるものの宮殿のような近寄りがたい雰囲気ではないし、かといってカジュアルな建物ではない。ちなみに、実際の設計においては、岡田の師匠に当たる辰野金吾らによって、窓の数や屋根の装飾、外壁などに変更が加えられています。建っているものと見比べてみてください。



第2席 長野宇平治案

何と言っても正面左右の塔がポイントでしょう。他の案と比べても一番高さがあり、雄大で荘厳な印象です。細部はよく見えませんが、長野は様式建築の設計が巧みな建築家ですので、ヨーロッパの様式に従い、堂々とした「大阪の顔」を目指したのでしよう。



解説／橋寺知子さん

関西大学環境都市工学部建築学科准教授。専門は大阪の近代建築。大阪市中央公会堂の保存再生工事時の調査や大阪府近代化遺産調査などにも加わる。ナカノシマ大学4月講座では、建築史的な観点から中之島図書館を解説してくださった。

第3席 矢橋賢吉案

長野案と同じく2本の塔がありますが、全然違いますね。よく見ると上部へ行くほど先がすばまっていて、東洋風あるいはエジプト風のオリエンタルな印象を与えています。先進的な案だと思いますが、やや塔と本体部分のバランスを欠いている気がします。



中央公会堂はこんな風だった？

大阪の「顔」をめぐるコンペ、 13人のエリート建築家が競う。

中之島の顔として今も広く親しまれている大阪市中央公会堂。まさにその「顔」をどのようにすべきか、建築家たちが競ったのは明治44年（1911）のことだった。

株相場師の岩本栄之助による100万円の寄付を受け、公会堂建設のための設計競技すなわち建築コンペが行われた。当時活躍していた17人の建築家が指名され、うち13人がエントリー。ここで紹介しているのは、その13人による「透視図案」（目で見るのと同じ

ように遠近法を使って描かれた図）だ。

この時の審査は13人の参加者自らが審査員となり、0から12点までの順位をつける互選方式という極めて珍しい方法だった。しかも、それによって選ばれた第1席から第3席までの順位は、コンペの顧問役であり当時の日本建築界の重鎮である辰野金吾の考案とまったく同じだったというのも奇遇である。かくして1席を獲得したのは、参加者のうち最年少である岡田信一郎だった。

抑えたことについて、関西大学の橋寺知子先生は年齢やキャリアがポイントになった可能性を指摘する。

「コンペ後の談話を読むと、工費のことを気にしている建築家が多く、どうやら工費がかなり厳しかったようです。ベテランになるほど決められた予算内で収まるように実現性の高い無難な案になりがち。その点、岡田案は華やかさがあり、よく練られています」

若く、新しいものを生み出していることとする青年だからこそ自分の夢を臆することなく表現できたということか。一番夢のある建築が現実になったというのはなんとも痛快な話だ。



大江新太郎案

屋根の上の大きなドームが目立つものの、全体的には整い過ぎている感も。2階部分をジャイアントオーダーで2層分の吹き抜けにして、正面にも大きな柱の装飾を配していますが、1階があっさりしているせいか、少々重たく見えてしましますね。



伊東忠太案

正面の装飾や半円アーチ、あるいは屋根のゴシック風の尖塔が教会のようですね。伊東と言えば祇園閣や築地本願寺など一風変わった建築で有名ですが、この案はとてもシンプル。後日談では工費のことばかり話しており、「これならできる」ということだったのでしょうか。



片岡 安案

実現可能性は高い案ですが、ポイントがどこかと聞かれると難しい…。片岡は様式建築を多く残していますが、伸びやかさに欠けると言われることも。当時すでに中之島にあった図書館や日銀とも馴染むでしょうし、そういう意味では手堅い案ですね。



大沢三之助案

正面部分はステンドグラスの面積が大きく、ヨーロッパの教会かお城のような雰囲気。実は一番気になるのはイラスト的な絵の描き方で、背景の樹木をリアルに描かないあたりはアール・ヌーヴオー的な表現でしょうか。建築としてはそれほど新鮮な印象はありません。



宗 兵蔵案

陸屋根（傾斜のない屋根）のようになっているため、華やかさは控えめ。中央の塔屋根も下からは見えないと思います。そのため、バルコニーがあるものの全体的には目に留まる部分が少ない気がします。宗の実務家的な性格がこうさせたのかもかもしれません。



古宇田 實案

大きくは西洋風なのですが、細部を見ると日本風が混ざっている。正面や屋根の部分に瓦を葺いていたり、破風がいくつもあるのが特徴的です。古宇田は日本独自の建築スタイルを提唱していた人物で、ここでも自説を通したということでしょう。



塚本 靖案

2層目、3層目はレンガと大理石のストライプのようになっています。当選した岡田案と似ている気もするのですが、描き方のせいか淡い印象で、目が留まる部分も少ない。人を描いていないので、都市の建築らしさがないというのの影響しているのでしょうか。



中條精一郎案

所々に装飾も見られますが、あっさりしたものになっています。中條のいた曾禰中條事務所は戦前の日本最大の建築事務所、大阪での代表作は堺筋の三井住友銀行大阪中央支店。かっちりしたものを造るのには長けていたわけですが、もう少し華やかさがほしかった。



田辺淳吉案

1層目が石積み、2層目はレンガで仕上げ、3層目にデザイン的なアクセントを付けたルネサンス風の建築。整ってはいませんが、斬新な印象はないですね。むしろ船着場の階段や照明などに目が行ってしまいます。川辺の都市美を強調したかったのでしょうか。



武田五一案

様式はルネサンス調でしょうか、クラシックな様式美を志向していることがわかります。他と比べて四隅の張り出した部分が大きく、屋根の部分や窓上の金色の飾りなど豪華で華やかなプランですね。ただ、中之島のあの場所には少し大き過ぎる気もします。

中央公会堂をめぐる、

取材文／大迫力未誌

夢の中之島ストーリー②

中央公会堂がなくなるかもしれない
—そんな話が持ち上がったのは昭和46年（1971）に発表された中之島東部地区再開発構想においてだった。手狭になった大阪市庁舎を高層化し、中之島図書館は取り壊して移転、中央公会堂も建て直すというのだ。

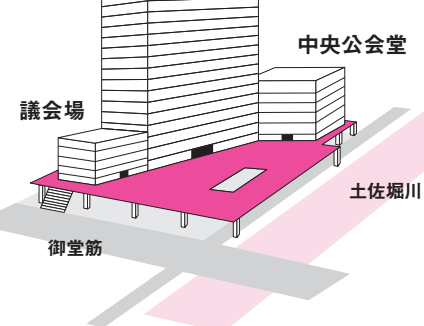


毎年5月の「中之島まつり」は景観保存のための市民運動がきっかけ。

同年6月24日の日本経済新聞に完成予想図が掲載されている。高さ約3mのレベルに「人工地盤」を造り、この地盤の上に市庁舎・議会・新しい公会堂が乗っかっているような格好だ。なんとも大胆な案ではあったが、若手

建築家や市民が立ち上がり、新聞なども巻き込んだ反対運動を展開。最終的に市庁舎は建て替えられたが、公会堂も図書館も保存が決まった。建築家で、当時、京都工芸繊維大学で建築を学ぶ学生だった安達英俊さんは、こうふり返る。「ちょうどこの頃から都市デザインという概念が注目され始めていました。中之島についてどう考え、どうしていきたいのか。歴史的建造物が破壊されることに加え、そうした思想が希薄だったことも反発を招いた一因ではないでしょうか。」

「人工地盤」に、公会堂と市役所を乗せる!?

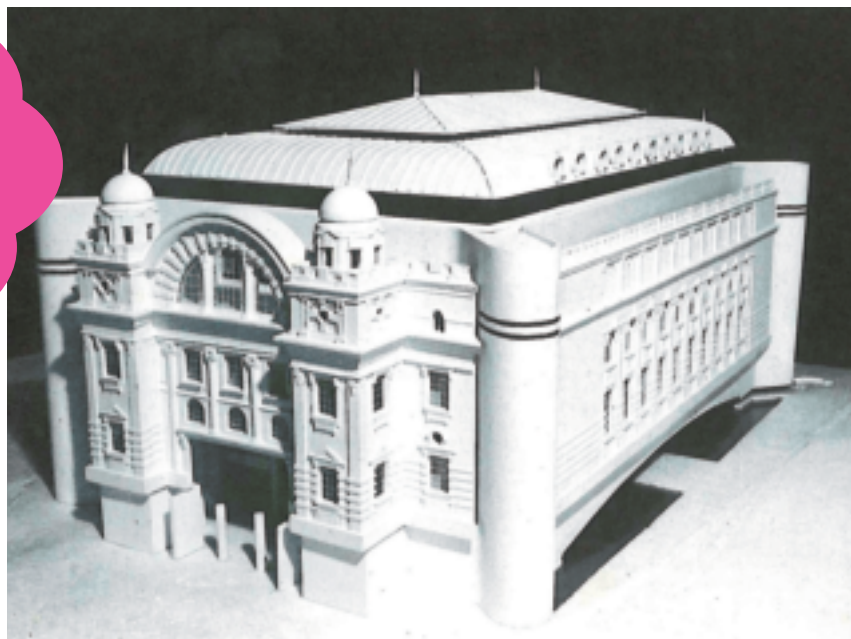


日本経済新聞（1971年6月24日付）の記事などを参考に作成。

昭和55年（1980） 「中之島第三の道」展

保存でも建て替えてでもない 「第三の道」はないか。

東部地区再開発構想により、歴史的建造物を建て替えるか保存するかの議論が巻き起こる中、違う道を模索する動きもあった。大阪万博の「お祭り広場」の設計などで知られる大阪出身の建築家・上田篤氏がその旗振り役だった。上田氏は市庁舎の建て替え時、国際公開コンペの実施を提案するも受け入れられず、以後自分の手の届く範囲で



展示会に出展された上田氏製作の中央公会堂の模型。地面から浮いているように見えるのは、ここを通れるようにするため。（学芸出版社刊「建築からの仕掛け」1986年より転載）

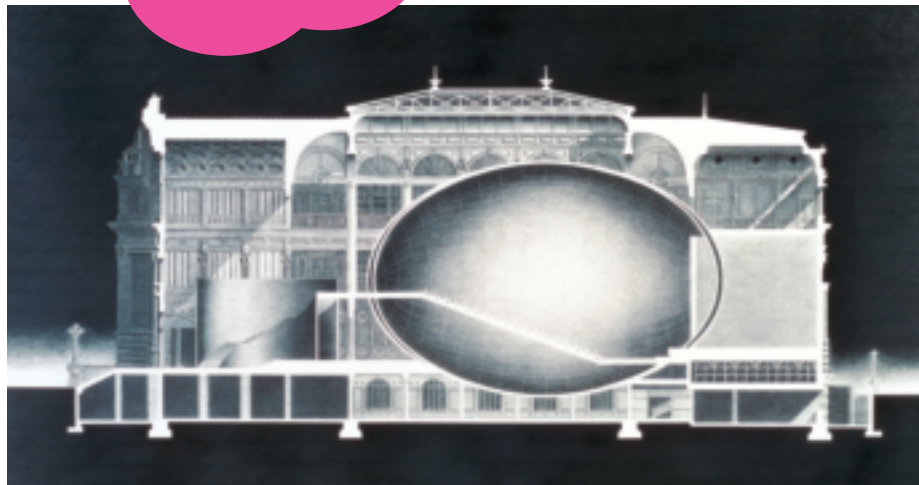
建築家たちのメッセージ。

世界のアンドウが示した、
大阪への愛と夢。

中央公会堂とは、よほど大阪の人々の心を動かすのだろう。上田氏と共に「中之島第三の道」展に参加した安藤忠雄氏も、後に中央公会堂に対する提案を行っている。有名な「アーバンエッグ」だ。

このアイデアが発表された昭和63年（1988）、中央公会堂は大阪市によって永久保存されることが発表されたものの、その10年ほど前から老朽化した建物をどのように保存するのが検討されて

昭和63年(1988)
安藤忠雄
「アーバンエッグ」



「アーバンエッグ」のセクションドローイング。新旧の衝突が生むエネルギーに、未来への期待が託されている。
写真提供／安藤忠雄建築研究所

非現実的な考えであり、
建築家の夢でしかないことは良く分かっていて、
だが夢だからこそ、現実の仕事の
数十倍のエネルギーをかけて、夢らしく見せたい。
（「建築家 安藤忠雄」より）

いた。そこで安藤氏は、「保存でも新築でもない、再生のアイデアをもって参画しよう」と目論んだ」（「建築家 安藤忠雄」より）。

ドローイングで一目瞭然。1・2階の吹き抜けホールに巨大な卵を挿入するのである。自立した構造物を内部に造ることで、既存の建物に手を加えず、宿った記憶も消すことなく、新旧の空間の衝突による新たなエネルギーを生み出すことを意図した。誰もが驚く斬新な提案だったが、構造技術的には可能という検証はできていたようだ。

同時に安藤氏は、地上の風景はそのまま残しながら、中之島の地中30mに文化都市を構築する「地層空間」と名付けられた巨大なプロジェクトも提案している。この時すでに押しも押されもせぬ建築家だった安藤氏が、わざわざ実現のあてのないプロジェクトを提案し続けるのは、自分を育ててくれた大阪への愛であり、恩返しであると著書で繰り返し語っている。

できることはないかと考えるようになる。そんな中、同志の建築家3人と共に企画したのが「中之島第三の道」という建築展だった。

中央公会堂・中之島図書館・大阪役所・日銀大阪支店の4つの近代建築を4人が一つずつ受け持ち、その再生案を提案する。それは単なる建て替えや保存ではなく、イメージや機能を継承しつつ生まれ変わらせる（リ・インカネーション）という「第三の道」を目指すものだった。

展覧会ではそれぞれの模型や図面が展示されたが、そのイメージの豊かで奔放なこと。しかも、4つの建物をぶち抜く公共歩廊を造って誰でも自由に通れるようにするという。もちろん誰に頼まれたわけでもなく、勝手に提案しているのだ。建築の継承とは、ひたすら保存し続けることではないという偉大なるメッセージだったのである。



**建築に、都市への
メッセージを託す。**

上田 篤さん
（建築家）

模型では現代的なニーズに応えられるようボリュームを大きくし、1階に公共歩廊を設けるぶん、高くなっています。歩廊は東西に加え南北にも通し、内部でクロスさせる。4つの建物だけをつなぐ通路ではなく、中之島全体を横断する中央軸にするのです。中之島の建築は特別な存在です。建物は変わっても、そのイメージは世代を超えてつながらなければいけません。そこで保存的な開発の手段として「リ・インカネーション」という概念を提案したのです。

夢の中之島ストーリー③

中之島4丁目の夢の足あと。

取材文／大迫力未誌 写真／浜田智則 資料提供／竹中工務店

5つの劇場を擁する大プロジェクトがあった。

夢の舞台と言えは、中之島4丁目の阪大医学部などの跡地は長らくそうであり続けている。現在は2020年度までのオープンを目指し、新美術館建設の準備が進められているが、かつて同じ場所で「中之島芸能センター構想」という計画が持ち上がった。

このプロジェクトは、大阪市が策定する「中之島西部地区都市総合再開発促進計画」という長い名前の都市計画プランに沿う形で、有識者の調査研究の成果として関西経済連合会から提案されたもの。それによれば、センター内には大・中・小と計5つの劇場があり、歌舞伎や能・狂言、日本舞踊といった伝統芸能から、オペラ、ミュージカルにモダンダンスなどあらゆる芸能を上演するという。

総工費400億円というビッグプロジェクトだったが、発表当初から反対の声も少なくなかった。「既存の中小

昭和52年(1977) 中之島芸能センター構想



構想発表当時、竹中工務店が地域開発のために自主的に作成したイメージパース。劇場にはそれぞれ「近松大劇場」「西鶴劇場」「世阿弥劇場」「竹本劇場」「秋成劇場」といった上方芸能の礎を築いた人物の名を冠しているのも面白い。その他、「芸能学研究所」という研究機関や託児所の設置も予定されていた。

劇場がつぶれる」という意見や、「経済人だけで考えてもいい劇場は造れない」「建てるのはいいが維持はどうするのか」という懸念もあった。

その後、芸能センターの計画は規模や用途を変えながらも、美術館建設と共に審議され続けていたが、予算や必要性の観点から頓挫した。中之島4丁目にはそんな見果てぬ夢もあったわけだが、なおのことこれから何ができてどうなるのか、楽しみにしたい。

新美術館に向かう「未来へのジャンプ台」。

先述の「中之島西部地区都市総合再開発促進計画」には、中之島の街をどうすべきかについて、さまざまな提案や計画が盛り込まれている。その中には、ビルとビルの間を縫うようにつなぐ「中央緑道」を造ろうというプランもあった。

それが一部実現しているのが、中之島3丁目の一帯だ。土佐堀川沿いの遊歩道から三井ガーデンホテル大阪プレミアにかけての歩道橋や、堂島川沿いからダイビル本館、そして関電ビルを結ぶ歩道橋がそれだ。ふだんビルを見上げながら歩くことが多い中之島では、少し目線が高くなるだけでずいぶん景色がかわる。何より歩行者専用のため歩きやすい。

ところでダイビル本館西側の「中之島四季の丘」に、植物に覆われた短い通路がある。下から見ると建設中の橋のよう。実はこれ、道路を挟んだ向かい側に新美術館ができたあかつきには、歩道橋でつながるようにするためのもの。建設関係者の間では、期待を込めて「未来へのジャンプ台」と呼ばれているそうだ。



中之島芸能センターを特集し、大反響を呼ぶ。
木津川 計さん
(雑誌「上方芸能」発行人)

最初に聞いた時はびっくりしました。ホールや芸能・芸術関係者も寝耳に水で、反対する声が多かったです。当時は石油ショックの直後で、狂乱物価と言われるほど経済が混乱していました。どのホールも観客を減らす中で、「何を考えているのか」との声もあった。しかし、5つの劇場ができることの効果を示し、周囲を納得させることができれば、受け止め方は変わっていたはず。実現できれば今度は大阪もずいぶん変わったことでしょう。

夢の中之島ストーリー④

粘菌の成長が都市開発の ゆくえを占う。(かも)

取材／江口由夏(本誌) 写真／浜田智則

「最適」を追究する粘菌が
教えてくれる理想。

アートエリアB1に現れた150分の1の中の島の模型に這う、アメーバ状の粘菌。脳も神経も持たない彼らには、近年高度な知性が認められている。

例えば迷路の入口と出口に餌を設置して粘菌を置くと、最終的に目的地までの最短経路だけを残す。関東圏の模型の東京駅に粘菌を放した実験で、餌が置かれた主要な36駅までの経路が、実際の鉄道網そっくりだったことは世界を驚かせた。その情報処理能力は人間やコンピュータを上回り、輸送コストや災害回避を念頭においたカ



間やコンピュータを上回り、輸送コストや災害回避を念頭においたカ

ナビゲーションのシステム開発への応用を目指した研究も展開されている。今回の展示は関東圏での実験を中之島に当てはめ、粘菌研究の第一人者を中心に、建築家やプログラマーらと粘菌の動きを観測するというもの。粘菌が示すネットワークを中之島の現在の街の様子と照合することで、近未来の開発のヒントにもなりうる。

2015年
アートエリアB1
ニュー
コロニー／
アイランド

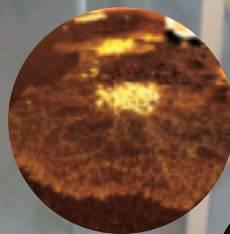
「観察すると、最短経路を出す過程で粘菌にも迷いがある」と、展示設計を行なった建築家の家成俊勝さん。「工学的には排除されるべきですが、その迷いは何億年もの自然淘汰を乗り越えてきた粘菌にとって、変化の余地を表しています。人が住みよい街にも、効率や合理的に留まらない遊びの余地が必要なのではと考えさせられますね」



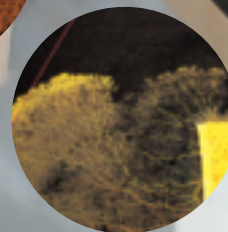
会場では粘菌をじっくり観察できる貴重なスペースもあり、タイミングが合えば餌やりも可能。暑さに敏感な粘菌のため、白衣姿のスタッフが絶え間なく湿気を与える。

サーチプロジェクトvol.4「ニューコロニー／アイランド」

6月28日(日)まで 12:00PM～7:00PM 月曜休 入場無料
※6月27日(土)4:00PMより、プロジェクトメンバーによるトークを開催



会場内で培養された粘菌はシイタケやオートミールを補食し、活動範囲を広げる。



中之島に「100年建ち続ける都市建築」を考える。

取材文／大迫力（本誌）

大学生はどんな夢を描くのか？

中之島に100年間生きながらえる都市建築を設計せよ。こんな演習が行われたのは大阪市立大学工学部建築学科の授業のこと。現在は空き地となっている中之島4丁目の広大な敷地に、どんな建築を構想するのかを問う課題だ。ご存じの通りここでは新美術館の建設準備が進んでいるわけだが、何が建つのか長年期待されている場所だからこそ面白いとも言える。

学生たちの自由な発想はどんな夢を生み出すのだろうか？ というわけで、3回生が受講する「建築設計演習Ⅱ」の中間講評会に参加した。自作の模型や図面を手に、先生方の前で緊張のプレゼンを行う学生たち。そのアイ

デアは、水都の歴史を伝えるミュージアムあり、巨大な結婚式場あり、都

大阪市立大学建築学科の建築設計演習に行ってみた

市型水産センターに病院・公園・保育園が一体になった施設、本を探すのではなく導かれる図書館…などなど。夢の膨らむものばかりだった。

中之島は夢が「許される」場所。

この演習は3年前から行われているという。では、なぜその舞台に中之島が選ばれたのか。担当教員の倉方俊輔さんと山口陽登さんにかかった。



倉方 あの敷地は1万6900平米もあり、ここに建つものは都市を左右するとても大事なものになるはず。だから、都市施設の構想力を問う課題としては一番ふさわしい。最初はそれくらいの思いつきでしたが、だんだんと中之

中之島の模型の後ろは右から倉方さん、山口さん、ゲスト講師で建築家の梅原悟さん。

島という場所がいろいろな読み解き方ができることに気づきました。

山口 大阪ぐらいの規模の街になってくると、街ごとに明確なカラーがあつて、難波や梅田などはそれが強すぎる。ところが中之島は不思議なもので、あまり色が強くない。なぜかと考えると、コンテキストというか歴史というか、いろいろな要素が折り重なっているからだと思うんです。オフィス街だと言う人もいれば、文化地区と捉える人もいるし、住む人が増えている点にも注目できる。捉え方次第の面白さがあり、それだけ包容力があるとも言えます。

倉方 そうですね。今のような経済合理主義ですべてを考えると、夢のある建築をつくるのもリスキーが大きい。でも、中之島ならリアリティを持つ可能性がある。一縷の望みが託せる。だって東側半分は公園なんです。別に公園がムダだから何か建てるという人はいない。中央公会堂も残っているし、そういう意味で長期的な合理性を構想できる。

山口 公園を造ると言っても、中之島ならありかなと思いますよね。

倉方 中之島の歴史の中で、過去に建ったものも建たなかったものも含めた夢の積層がある。

山口 その夢が許される場所が中之島なんです。倉方 100年を意識したのも、それらに匹敵するビジョンを考えてほしいからです。それがあればいつか建つかもしれないんですから。

キーパーソンが中之島の近未来を語る

中之島Next

ネクスト

No.03



清家 将之さん(大阪シティクルーズ推進協議会)

船会社が先導する、新しい水辺の風景づくりを。

多種多様なクルーズが生まれるなど、ここ数年で一気に進化した中之島の船遊び。
その進化はまだまだ続くのか？ 大阪シティクルーズ推進協議会の清家さんにうかがった。

2007年に設立した大阪シティクルーズ推進協議会（OCC）には、私が所属する大阪水上バス株式会社のほか、いくつかの船会社が軸になって構成されています。

それまでライバル意識が強かった船会社が、OCCの発足によって協調できるようになったのは大きかったと思います。2008年には八軒家浜船着場の設置をきっかけに、OCCに加盟する船を大小関係

なく船着場に繋ぎ、お客さんに人数に合わせて選んでもらえるようにしました。航行の安全性と団結につながりますし、お客さんにも利便性が評価された企画でしたね。観光シーズンだけの実験的な取り組みでしたが、ゆくゆくは日常化して船をタクシーのように利用できるようにしたいです。

船のある日常風景を目指して。

中之島の水辺が大きく変わったのは、「水都大阪2009」という大きなイベント以降。その反響を見て、私たちOCCがこれからについて話し合う場を持ち、毎年ブラッシュアップして今の「水都大阪フェス」につながっているんです。近頃は人と人の距離が近くなるマルシェの設置に重点が置かれています。日常生活に水辺を密着させようとする仕掛けが成功したと感じました。

そうしたイベントに反映されているように、私の理想はもっと船を日常使いしてもらうこと。どうしても観光のイメージが強く、地元の方との間には距離があるんです。住んでいる場所と水辺の境界をどんどん曖昧にしてほしい。「とりあえず水辺に行ったらええよ」という考えが浸透するまで、できることはまだまだあると感じています。

水辺を変える仕掛け続々。

この5月、本町橋に小型船が係留できる新しい船着場が完成します。また、夏頃には大阪城周辺にも船着場を設け、小型船に乗り込んで観光できる企画を始める



人々が気軽に立ち寄れる水辺の拠点として2009年にオープンし、OCC加盟企業が運営の一端を担う「川の駅はちけんや」。観光船案内所やレストランが入り、朝市や水上スポーツなども行なわれる。



清家さんが思い描く、大小の船が集まる水辺の未来予想図。筆をとったのは、京阪電車ユーザーには沿線の風景画でおなじみの水津俊和画伯だ。

ことになりました。2つの船着場が設置されることで、提案できる遊びの幅も広がり、人の流れも変わり、選択肢を大幅に増やすことができます。船遊びに最適な夏から秋にかけて、水辺のニュースは尽きることがありません。どうぞお見逃しなく。

この記事の全文は「中之島Days」
ウェブサイトで読むことができます。



清家さんは外海中心の航海士だったが、1990年の大阪港帆船型観光船「サンタマリア」就航に合わせ、その前年に大阪水上バスに入社。「中之島をドイツの港湾都市であるハンブルグのような街にしたい」と意気込んでいる。<http://www.osakacitycruise.net>



中之島の暮らしを
歴史・現在・未来から知るための情報サイト

中之島 Days

<http://nakanoshimadays.com/>

月刊島民&
大阪スケジュールの
コラボで発信！



ケータイ&
スマホからはこちら！



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

笑福亭生寿



林家花丸

笑福亭たま

◎今月の授業

【落語】

2015年7月講座

「天神祭の極意」

落語／林家花丸 笑福亭たま 笑福亭生寿

天神祭ネタの落語で大笑い。
楽しみながら祭の歴史と鑑賞法を学ぼう。

7月25日は天神祭の本宮。祭ムードが盛り上がる中、天神祭ネタを集めたこの時期にぴったりの落語会を開催。

トップバッターは若手きっての技巧派・笑福亭生寿さん。天神祭の最中に忠臣蔵の登場人物が不思議な縁で交錯する「仮名手本天神祭」を披露する。大人気の笑福亭たまさんは天神祭の季節のために創作した「菅原君の祟り」で爆笑を誘う。落

語のトリを務めるのは昨年繁昌亭大賞に輝いた林家花丸さん。江戸時代の伝承を元にした「御迎え人形の恋」を披露する。

どれもじっくり笑えるネタでありながら、天神祭の歴史や見どころをきっちり踏まえたもので、笑っているうちに勉強にもなるのだからさらに面白い。後半では大阪天満宮文化研究所／追手門学院大学客員教授の高島幸次先生と落語家のみな

落語
笑福亭生寿
「仮名手本天神祭」
笑福亭たま
「菅原君の祟り」
林家花丸
「御迎え人形の恋」
「中入り」
「天神祭の実を語る」
司会／高島幸次
林家花丸
笑福亭たま
笑福亭生寿

さんによる対談もあって盛りだくさんの内容。思い切り笑って、目前に近づく天神祭をもっと楽しもう。

「天神祭の極意」

日時／2015年7月21日(火)

6:30PM～8:20PM頃(開場5:30PM～)

会場／追手門学院大阪城スクエア 大手前ホール

入場料／2,000円

定員／300名

主催／ナカノシマ大学事務局

共催／追手門学院

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、FAX、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学7月寄席」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付後、6月20日前後より受講票を発送します。

※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

募集要項

噺家が語る天神祭ネタの 聴きどころ、聴かせどころ。

あの2人が
一緒に祭見物!?



笑福亭生寿

「仮名手本」と言えば忠臣蔵ですが、まさにその通り、吉良上野介と大石内蔵助が天神祭見物にやって来るという噺です。忠臣蔵の最後は吉良が大石に斬られるわけですが、この落語ではどうなるか…といったあたりが聴きどころですね。今回の落語会をきっかけに初めてやるネタですが、演じる身としてはどんなリズムで物語を進めていくかがポイントになりそうな気がします。ふだんは古典落語が中心なので、新作をかけることはまだあまりありません。こういう機会を活かして、どんな芸の幅を広げていけたらと思っています。

ネタは…「仮名手本天神祭」

噺の舞台は江戸時代。当時の儒学者が遺した記述を元に膨らませたネタで、討ち入り前に吉良上野介と大石内蔵助が天神祭で会ってしまふ。心ゆくまで祭見物を楽しんだ2人にどんな再会が待っているのか。

しょうふくていせいじゅ
2007年、笑福亭生喬に入門。32歳の若手ながら、すでに技巧派との呼び声も高い期待のホープ。今回はトップバッターを務める。

笑福亭たま

「菅原君の祟り」は僕が創作したネタですが、噺のキモの一つになっているのが、橋の上から船渡御列を見下ろしながら、祭について話す部分です。僕も祭の日は船に乗っていますが、そこで見たり勉強して「おもしろい」と思ったことがギャグになって落語に出てきます。「おもしろい」と思ったものの中からインパクトの強いもん順に入れていますから、そういう意味ではこのネタは船渡御のダイジェストになっているかもしれません。きっと祭のことがわかりやすくなりますよ。橋の上から見物している時に隣の人に話したら、「へえ、そうなんや」と言うてもらえると思います。僕の解説でよければ、どうぞお使いください(笑)

ネタは…「菅原君の祟り」

天神祭の日に結婚した菅原君は、そのまま船渡御に参加する。同僚が部長のマンションから船に乗る菅原君を見ていると、部長から衝撃の事実が告げられる。しかし、それこそが祟りの始まりだったのである…。



船渡御の解説を
お楽しみに

しょうふくていたま
1998年、笑福亭福笑に入門。創作落語や「ショート落語」にも熱心に取り組み、一度聴いたらクセになる唯一無二のたまワールド落語で大人気。第7回繁昌亭爆笑賞受賞など実力も折り紙付き。

のめり込んで
いける噺です



林家花丸

この噺はもともと天満天神繁昌亭の「上落語台本大賞」の応募作品で、一般の方が作られたものです。さすがに特別賞を受賞されただけあって、「この後どうなるんやろ?」と興味を持たせる展開になっているのがすごいですね。江戸時代から伝わる伝承を元にしていて、当時流行っていた歌舞伎の話題が出てきたりしますが、そのあたりの歴史的事実を大切にしつつ、自分なりに足し算やかけ算をして、誰でも楽しめるように練り上げたいと思っています。天神祭は船渡御ひとつをとっても、川岸から見なのか、橋の上からか、はたまた船に乗って見るのかでまったく楽しみ方が変わるお祭りですね。私は毎年、渡御船に乗って乗船客向けのお話をやっているのですが、そこで得た知識も活かせればと思っています。

ネタは…「御迎え人形の恋」

「御迎え人形」は、船渡御を歓迎するために氏子たちが船の舳先に掲げた人形のこと。最盛期には50体近くが作られ、天神祭名物の一つだった。その人形に商家の娘が恋をしてしまうというから、さてどうなる?

はやしや・はなまる
1991年、林家染丸に入門。古典から新作までどんな噺でもしっかり笑いをとる器用肌。昨年には文化庁芸術祭賞優秀賞、第9回繁昌亭大賞を立て続けに受賞するなど、ノリにのっている落語家の一人。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

笑う落語の大阪

第十五回 高島幸次

フィクションだとわかってはいても、妙に感心してしまう噺がある。平安末期の歌人・西行（1118～1190）が登場する『西行鼓ケ滝』もその一つだ（『西行』あるいは『鼓ケ滝』とも略す）。

西行は鼓ケ滝を訪ねて「伝え聞く鼓ケ滝に来て見れば沢辺に咲きたんぽぽの花」と詠む。その夜、泊まった民家でこの歌を披露すると、それを聞いた爺は「伝え聞く」よりは「音に聞く」のほうがいい、

婆も「来て見れば」よりは「打ち見れば」のほうがいいという。素人に添削されて一瞬ムツとする西行だが、たしかにその方が、鼓を打つような滝の音に響き合うと、納得する。

さらには孫娘が出てきて「沢辺」は「川辺」に、「たんぽぽ」は「白百合」に変えたら、と助言する。なるほど、鼓ケ滝は摂津国川辺郡の在だから、一般名詞の沢辺より、川辺のほうが相応しい。「たんぽぽ」よりも、「白百合」のほうが滝に映える。こうして3人からのアドバイスを受け入れた西行は、自らの未熟を深

く省みるという噺だ。和歌の素養がない私は、なんと見事な推敲だ、と感心するしかない。同時に和歌の手法も学んだ気にもなる（効果のほどはいざ知らず）。

ただ、噺の最後に右の3人は、実は住吉明神・人丸明神・玉津島明神の化身だったという種明かしは、蛇足にしか思えない。

もし、素人に添削されたのでは西行の名折れだと考えて、和歌三神を

鼓ケ滝に響く 西行の「学ぶ力」。

登場させたのなら、それは御節介でしかない。西行ほどの歌人だからこそ、3人の素性にはこだわらず、学ぶことができたのだ。教える側の地位や肩書ではなく、学ぶ側の姿勢が学びの成否を分けるのだから。

6月天神寄席のゲスト、内田樹先生の『先生はえらい』（ちくまプリマー新書）は、中高生向けだが、大人の目からもウロコがホクホク。

たかしまこうじ

大阪大学招聘教授、追手門学院客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

6月寄席は、師匠と弟子がてんやわんや。

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。

6月席は、ものを教える立場の「先生」ネタが大集合。

教える中身はネタそれぞれで、思わず首をかしげるものもあるが、教える者と教わる者の関係性にはくすりと笑ってしまう。

鼎談のゲストには、長く神戸女学院大学で教鞭をとり、今も道場で多くの門下生を抱える内田樹先生が満を持して登場する。

●6月のお題は先生

6月25日（木）

「師匠はえらい」

落語／桂雀喜・桃太郎

笑福亭たま・崇禅寺馬場

桂米紫（あくびの指南）

桂勢朝（餅屋問答）

桂塩鯛（百年目）

鼎談／師匠と弟子の覚悟

内田樹（武道家・思想家）

高島幸次（大阪天満宮文化研究所）

桂春之輔

「先生と呼ぶのはその人の自由」と話す内田樹先生。師と弟子、理想の関係とは？

ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席の前売チケットをナカノシマ大学で買うと、1800円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じく、ウェブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日／6月25日（木）

時間／6:30 PM（開場6:00 PM）／受付開始5:45 PM（）

受講料／1800円（通常…前売2000円／当日2500円）

支払い方法／当日、現地にて精算

※予定枚数に達し次第、販売終了します。

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP10を参照してください。

●問い合わせ ☎06-4799-1340（平日10:00 AM～7:00 PM）



イラスト／フジワラトモコ

トリを務める桂塩鯛さんは、「先生」である桂米朝師匠十八番の『百年目』を披露。

トウニン月報

2015年6月1日発行

これは使える！
中之島の建築と
絵画マップが誕生



問い合わせ／☎0120-866-844(大阪市民共済生活協同組合)

淀屋橋に事務所をかまえる
大阪市民共済から、島民に嬉
しいニュースが届いた。
今春から年に4回発行され
る、大阪市民共済の組合員向
けの冊子『yondoko (よんど
こ)』で、中之島がまち歩きM
APとなって詳しく紹介され
ている。「絵になる街・中之島」

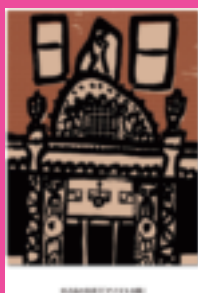
になる風景に出くわす街はそ
うそうない、と気付くはず。
嬉しいことに、歩き疲れた時
にひと息つける川沿いのカフ
エも掲載されている。
『yondoko』は「読んでお
こう」という意味だそうで、
一般の方でも共済の事務所で
もらうことができる。また、



今回はMAPで紹介している
大阪市中心公会堂や中之島園
書館などでも配布。7月中旬
に発行される次号はちんちん
電車の走る街、天王寺・住吉
のMAPが予定されている。
こちらもお楽しみに！
(道田恵理子・本誌)

諸君、ついに出来たぞ！ ナカノシマ大学オリジナルグッズ。

全16種類！
絵はがき



中之島絵はがき
1枚180円
お好きな絵柄5枚750円
16枚全種 2,000円

ノートに貼ろう 大学シール

ナカノシマ大学シール
1枚540円



お買い求めは各月のナカノシマ大学講座会場、
またはネットショップ <http://140b.jp/store/>にて。

戦乱から振り返る、 大坂城の落城と築城

大坂城天守閣では7月半ば
まで、大坂城の築城と落城に
まつわる常設展を2つのフロ
アにわたって開催中だ。
まず3階では、同地に創建
された大坂御坊までさかのぼ
り、大坂冬の陣・夏の陣に代
表されるような戦乱の渦中に
あった大坂城に焦点を当てる。
そして4階では、徳川幕府に
よって再築された大坂城を取
り巻く、幕末の混乱をフィー
チャーする。ちょうど150
年前の慶応元年(1865)
に第14代将軍徳川家茂が入城

し、またたく間に大坂城は幕
末政治の舞台に。その3年後
の戊辰戦争にて、武家の世の
終焉を告げるかのように大坂
城は炎上した。当時の瓦版に
も大きく取り上げられたこと
から、市中の人々にもとんで
もなく衝撃を与えた事件だろ
う。大坂の陣から天下泰平の
世を経て、再び落城の憂き目
をみた大阪のシンボルに迫る。
(江口由夏・本誌)



瓦版 戊辰戦争大火図
大坂城天守閣蔵

大坂城天守閣常設展
3階展示室「築城と落城
～大坂城興亡史～」
期間／7月15日(水)まで
4階展示室「大坂城の幕末」
期間／7月16日(木)まで
時間／9:00AM～5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
天守閣入館料／600円
問い合わせ☎06-6941-3044(大坂城天守閣)



錦絵 大坂名所一覽(部分)大坂城天守閣蔵

20世紀初め、欧米の女性たちに衝撃を与えた「コスチュームジュエリー」。ガラスやビーズを使った大ぶりなそれらは、貴金属や天然真珠を使ったシブブルなデザインのみがジュエリーとされてきた世界に革命をもたらした。有名デザイナーが打ち出し、ハリウッド女優らが好んで身につけた斬新なジュエリーは、女性たちの美意識も変えていった。

そんな革命的アクセサリーの魅力を日本で発信し続けているのが「アビステ」だ。アメリカやフランス、イタリアから流行を見極めたバイヤーがセレクトし、時には日本人の感性に合うようなデザインをオーダー。宝石を模したキラキラと輝くゴージャスなタイプから、最近では樹脂を使った軽やかなもので、取り扱うテイストは多岐にわたる。



ブルーが涼しげなアメリカ製のネックレスとイヤリングのセットは262,500円(写真右)。スワロフスキーストーンをふんだんに使用したフランス製のネックレスとイヤリングのセット(231,000円/中央)には、同系色同素材のバッグ(168,000円/左)を合わせればゴージャスなパーティー仕様に。※価格はいずれも税込み



店では一体ずつ表情や衣装が異なる看板娘の「マーグトボール」がお出迎え。インテリアとして人気のアイテムだ。大胆なプリントが華やかなコットンやシルクのストールは、コーディネートアクセントと気分転換にぴったり。

好みに合わせて、日常使いしやすいデザインも扱うようになった。コスチュームジュエリー入門の問口を広げた「アビステ」は、これからのコーディネート遊び心をくすぐってくれることだろう。

ファッションの進化を楽しむ、アートのようなジュエリー。

【アビステ】 ●インポートアクセサリー

セレクトショップゆえに点数が少ないアイテムもあり、お客さんとジュエリーの一期一会を取り持つ場は、スタッフの腕の見せどころ。実際に身につけてもらい、大ぶりながらも手頃な値段で、重ね付けてデザインの妙を楽しめる魅力を伝えている。

中之島フェスティバルプラザのこの店に訪れるのは、フェスティバルホールでクラシックコンサートや古典芸能を嗜むマダムが中心。年配の婦人が隠しがちな肌をあえて見せることで「社交場」で過ごす時間を長く楽しんでもほしいと考えている。公演中にさっと羽織れるストールを揃えているのも、店舗のカラーのひとつ。

この店舗は全国のホテルで展開してきた「アビステ」が新たな層に発信する拠点でもある。中之島のオフィス街に勤める若い女性の

祝 祭 へ よ う こ そ 。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング



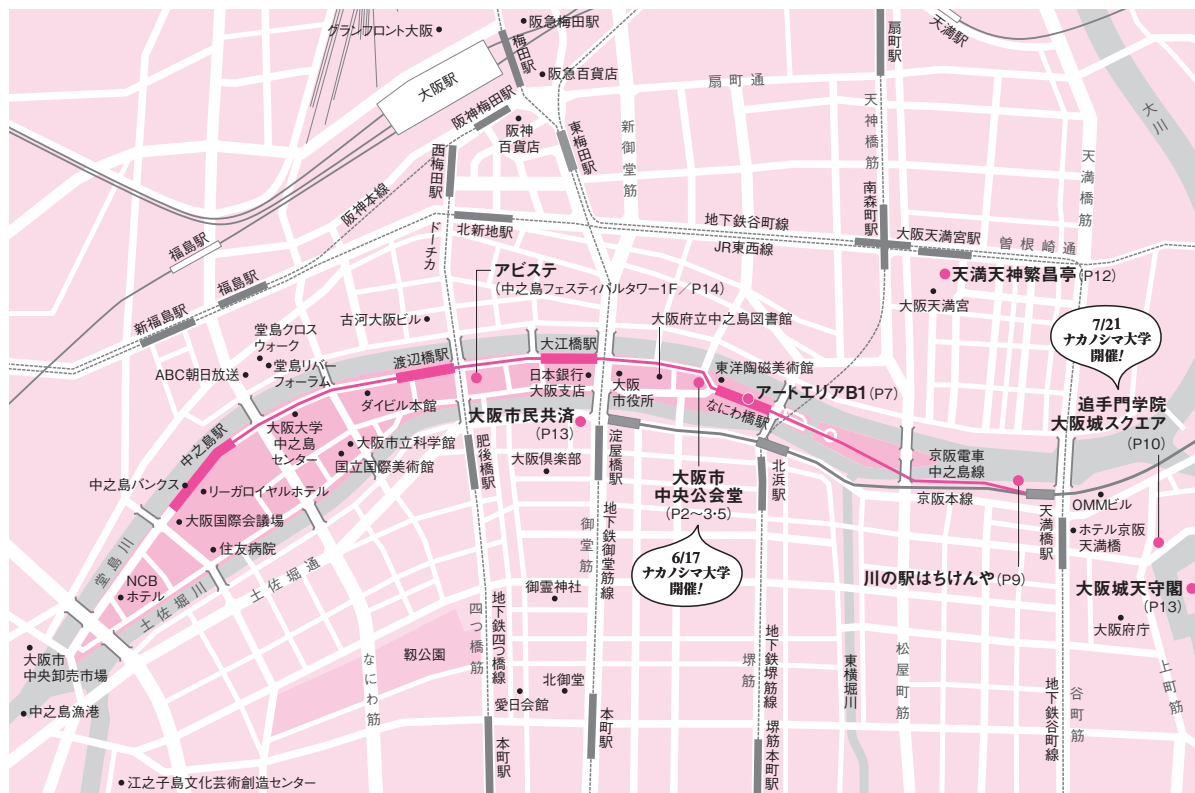
アビステ
●中之島フェスティバルタワー1F

ジュエリーは気軽に身に付けられるリーズナブルなものから、きらびやかなイヤリングとネックレスがセットになったラグジュアリー仕様のものまで幅広い。シンプルな着こなしに映え、いずれもデザイン性の高さと質と価格のギャップに驚かされるはず。その目利きはバッグやウォッチ、これからの季節に嬉しいバラソルなどの小物にも及んでいる。

☎06-6226-5668 10:00AM~8:00PM

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店/梅田 蔦屋書店/カベラ書店/紀伊國屋書店 梅田本店/グランフロント大阪店・本町店/ジュンク堂書店 大阪本店・梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 【公共施設・大学関連施設など】アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス
- 【店舗・医院など】アંドル 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前鰻料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー)/カセッタ/喫茶カンターロ/喫茶SAWA/グランスイート中之島/黒門かえ/コモンカフェ/The Court/サウ花店 中之島本店/サメロディ/シアトルホースーヒー新聞ビル店/じろう亭/Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ペンジャーノ/バスターレー/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/フレイムハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループル書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立中央図書館/大阪府立江之子島文化芸術創造センター/川口基督教教会 【店舗・医院など】あじさい/アートアンドクラフト/欧風食家 ミリバー/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟がめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワンナ/バルビコ/ホテル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂/Books 呼文堂/水嶋書房 千早はもろ店/大阪狭山市立図書館/大阪市立難波市民学習センター/大阪大学企画広報・社会学連携事務局/大阪大学 21世紀懐徳堂/大阪大学本部/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンボゾン/百録/奈良県立図書館情報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルーエ(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(荏原中延)/ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 土佐堀ストリートジャーナル

ここ数年、新しいショップの出店やビルのリニューアルが進む土佐堀通。
目新しさと旧さが共存するエリアの最新情報をお伝える。

●『月刊島民』vol.84は2015年7月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

あじさい(三盛園寺)

花めぐり

初夏の彩りに誘われて。



中之島けい子

花しょうぶ(平安神宮)

バラ(ひらかたパーク)

■バラ■

鞆公園
中之島公園
万博記念公園
ひらかたパーク
京都府立植物園
びわ湖大津館
ガーデン
ミュージアム比叡

■花しょうぶ■

城北公園
万博記念公園
山田池公園
枚方市 市民の森
勧修寺
平安神宮
京都府立植物園
石山寺

■あじさい■

万博記念公園
山田池公園
三室戸寺
藤森神社
京都府立植物園
三千院

開花状況は、京阪電車主要駅の「京阪沿線花だより」ポスター、またはホームページ「おけいはん.ねっと」をご覧ください。

天候などで、例年とは開花時期が異なる場合があります。

京阪の
おけいはん。
人。

www.okeihan.net